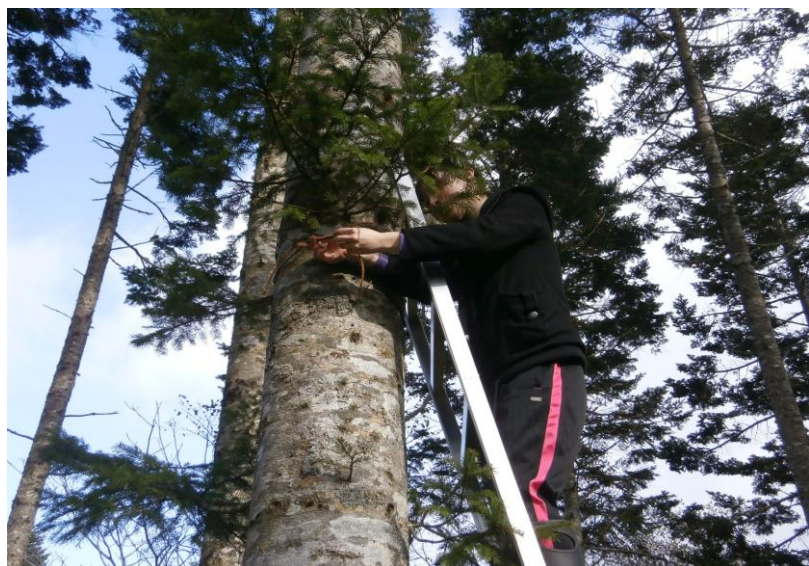


モモンガのおうちを作ろう



子ども自然クラブに参加した 子どもたちの声

「自然は楽しい」

「いつも川で遊んでいる」

「自然や動物と触れ合うのが好き」

「木でおもちゃを作れて楽しい」

「また参加したい」

- ・霧多布湿原を自分たちの城のように得意げに振る舞っている。



町内の小学校との連携

- 浜中町では、年度初めにトラストと町内全ての小学校とが打ち合わせを行い、総合的な学習の時間を利用して環境教育活動を行っている。
- 年度末にはトラストから報告書を各学校に提出し、そこから来年度に向けて新たなプログラムを考え、次につなげている。
- バードコール作り、モモンガの家づくり
霧多布湿原の探索など



浜中町の活動からわかったこと

- ・小学校と環境教育団体のつながりがある。
- ・児童の参加者を広域な範囲から募集している。
- ・活動を広めるためのPR活動を積極的に行っている。



釧路市と浜中町の比較

	釧路市	浜中町
面積	1362.75km ²	423.44km ²
総人口	182,084人	6,450人
産業	漁業 製紙業 製菓業	酪農業 漁業
小学校数	29校	7校



<p>環境教育を行っている団体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもエコクラブくしろ(環境省) ・トラストサルン(NPO) ・イオンチアーズクラブ(民間) ・ワンダグリンダに登録している団体数→48団体 	<ul style="list-style-type: none"> ・霧多布湿原ナショナルトラスト
<p>団体と小学校の連携</p>	<p>連携している小学校としていない小学校がある。</p>	<p>全小学校と連携している。</p>
<p>小学校での環境教育の取り扱いについて</p>	<p>主要科目に力を入れており、環境教育の時間は少ない。</p>	<p>総合学習の時間に、環境教育が組み込まれている場合が多い。</p>



考察

- 釧路市には環境活動に携わる団体が多い。
- 子どもたちが主体となる環境教育活動を行うことで多くの参加者が増えるのではないだろうか。
- 全ての小学校が環境教育を受ける環境を団体を介して作っていく事が重要である。
- 釧路市内の小学校は、授業に環境教育を取り入れる時間が無いという現状がある。
- PR活動をさらに活発にしていくことができないか。





提 言

釧路に愛着を持てる環境教育活動

考察をふまえた提言に向けて

1. できる限り全ての小学校に情報発信の協力を依頼する

学校によってムラがあるが、授業に組み込むのは難しい

→ ビラの配布やポスター掲示、学生の宣伝活動への協力等

2. 継続性のあるものにする。

中学生・高校生になっても続けられるような活動にすることで、継続しやすい体制をつくる。

3. ネットワークをつくり、連携を図る。



釧路の自然やまちを雑誌にしよう

《活動内容》

体験活動を通して感じたこと、自分たちで撮った写真、取材したことなどを子どもたちが記事にする活動。活動を体験だけで終わらせるのではなく、雑誌として形に残す。

《必要な準備》

- ・企画実行のために、企業や団体に協力を依頼する。ワンダグリンダのようなネットワークを持つ機関と連携。
- ・学校にも協力を依頼し、参加者を募集する。学校という機関を通すことで、基本的に全ての家庭に情報が届くようにする。



モデル地区

小学校や
中学校

ワンダグリダを
通してサポートし
てもらう。

ワンダグリダ
企業や団体

自由参加PR

学生

連携

連携

連携

継続

環境教育活動

企画

- ・湿原探検
- ・釧路の宝探し
- ・秘密基地
- ・料理

もの作り

- ・雑誌作り
などなど

- ・企画の準備、提案
- ・一緒に参加、補助
- ・活動記録を広める



モデル地区について

モデルとなる環境フィールドを決め、団体を設置し、環境教育活動を行う。子ども達は、学びたいことによって、フィールド場所を選べる。自分が通っている小学校から近い場所でも、遠い場所でも良い。

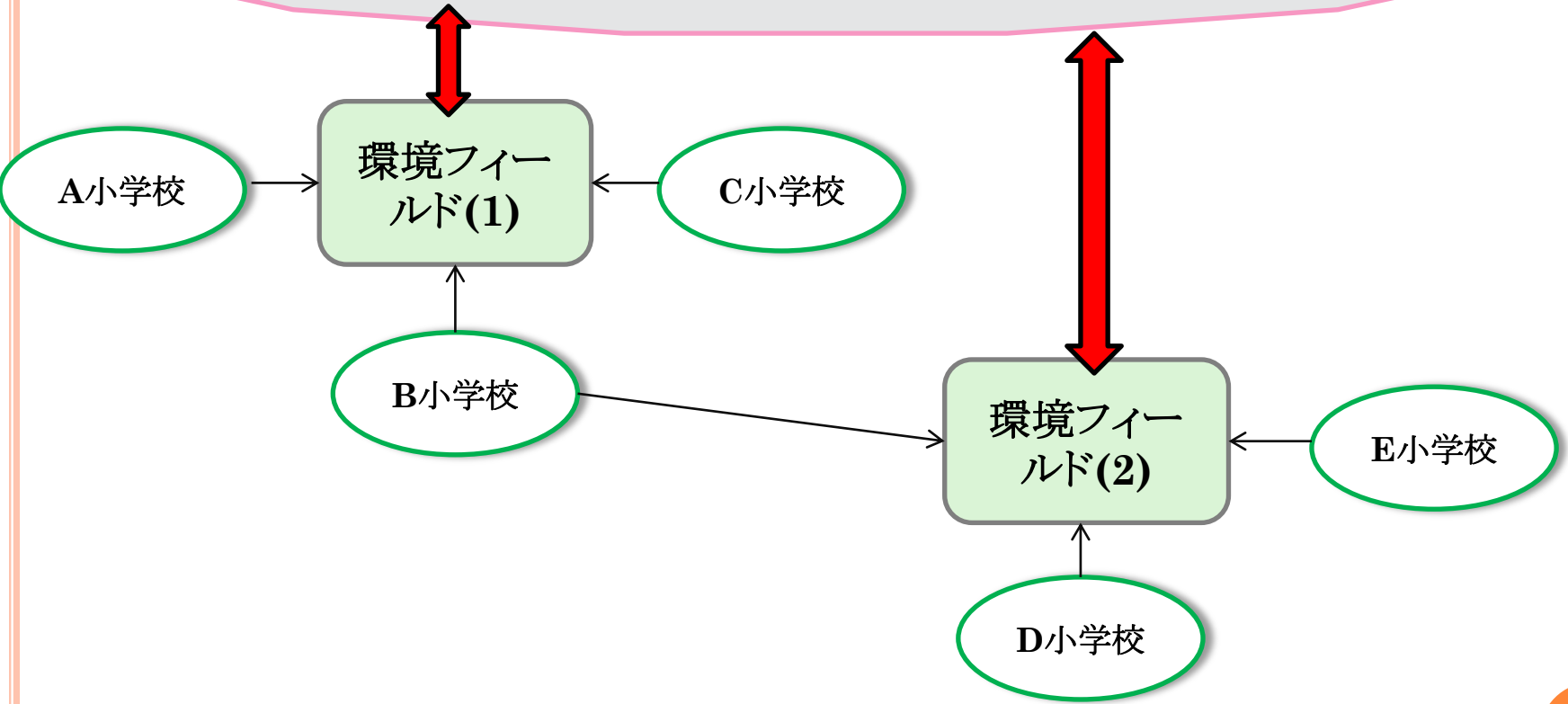
例えば・・・

春採湖をフィールドとする場合、周辺の小学校では、城山小学校、釧路小学校、中央小学校などがある。これらの小学校と団体が結び付き、春採湖を拠点として活動を行う。



モデル地区の図

さまざまな団体



今後の方向性

- この活動を広めていくことで、継続する子どもを育て、次世代へ伝わる。
- この活動が将来、地域に残るきっかけの一つとなる。
- 子どもたちの活動を介して、保護者の環境意識を変える。



環境教育活動を行うことは、愛着を育てることにつながる。

環境教育活動とは、自然との触れ合いを通して、社会で生きる力を育てたり、自然を守ろうとする気持ちを育てたりする活動である。

自然は単体で存在するものではなく、そこに地域があることで自然が存在する。(例えば、釧路湿原は釧路という地域に存在するものであり、釧路湿原という自然が好きということは、釧路という地域が好きということである。)

自然は地域に置き換えて考える事が出来る。

自然を守ることは地域を守るということであり、そういった意識がいつの間にか愛着を育てることにつながる。

つまり、環境教育活動を行うことは、愛着を育てることにつながる。

参考文献

- 環境省HP
- 霧多布湿原ナショナルトラストHP
- 浜中町HP
- こどもエコクラブくしろHP
- ワンダグリンダHP
- 霧多布湿原センターHP
- 温根内ビジターセンターHP
- 足もとの自然から始めよう 2009年 デイヴィド・ソベル
- 環境学習～知恵の環を探して 2005年 木俣美樹夫
- NPOが北海道を変えた 2004年 編集工房NODE
- 琵琶湖発 環境フィールドワークのすすめ 2007年
滋賀県立大学環境フィールドワーク研究会



謝辞

本発表を進めるにあたってお世話になりました

- ・ワンダグリンド様
- ・こどもエコクラブくしろ様
- ・イオンチアーズクラブ様
- ・霧多布湿原ナショナルトラスト様
- ・北海道教育大学釧路校 大森 享 先生
- ・市内各小学校、大学の皆さま

この場をお借りして、お礼を申し上げます。

